KODAK Color Control Patches ©The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

ノ5
2843
3

癸巳 重日記

へ利5
2.843
3

門 へ 利 三
號 2843
巻 3

[illegible]

正徳三癸みのとし

元日より臨川坊に入て芭蕉翁の
真筆を助言せんたのしさ二日まで
桑流下にあらしのやうな大雅
にて候也

月空居士
露川

元日はきのふに二月八日白し

尾張堂

裏白表

誰ぬかぬ世を捨て尾の侍
に假ねのねまりを求む

桑流下
巴静

裏白やそれも一樹の自在鍵

梅ちるころの則の窓 呑水

まちかねし花を呼ぶと移向 雅之

三日月を化さ侍ハ　巴静

咒はそこのうく之方ハ嘆てゆ　呑水

笑ひよ中産彩るの母の院推之

二首　　亜江斉　呑水

うらやなぎの世ハ侍ハ

ものの日の影ハ枯ゆるの冠棚推之

歳暮　　木又人　推之

芭蕉ぶかつをうてこむゆ　鶴

坊ゆ比角比面外師ゆ　呑水

連歌のうこ　朱ゆるの

白を落よ　耶郷の杖

ゆるゆ人く枯て　真やまの　巴静

粥杖哉　　風竹

粥杖やたゆ　ぶて生ゆ

閑ゆおて　の独よゆる梅　巴静

糸柳　之居乃風や賦ゆ人　随柳

脊伸ゆ　世と歩ゆ　保合

湯寺ハ　ゆめゆ親　一秋

ゆ形ゆ　と　方中

入月ゆ　の山桝の　十又

負双六　腰乃　執筆

八日表

破(トナ)蓋の流れわるき茶碗　仙角

言砂糖　新調百目替　巳静

蕎麦切　藤夷板の入藤も絡て　斗曲

思ひ出　胸ふさ　羽窪

一物をなく八重旁の時て切　元山

菌うりさと　九寸　九山　春来

朱塗桶　随神

汁粉や水風呂桶と寵役

味噌桶て大馬鹿者　一秋

臺所そこぶ朱塗の桶代　方中

所汁桶よ新をすぐや線掛　保谷

行ものかぬ桶形の仕義第　十又

朱塗壺　羽窪

俗陀佛壺ぬのとしまりく統

壺とくそくさとてまるぐり　元山

りまみ壺やと百七まり李　仙角

餅物をにあくく結川壺　斗曲

若菜摘　　雅洞

降わたる雪や若菜の首引

嬉しさは巾も新烏帽子哉　巴静

雑なる乃末枯くさ蝶かな　吟水

細きハ初秋として浙瀝　佳言

有涼し出して庭を三日　林月

笹まし笹にえ衣傍寄　楓払

家く乃風哉咲する家　鞆　左枝

一二貫橋を去ときしと島　一風

涼秋哉

涼秋哉家ハや布袋ぬ着ぬれ　林月

菜漬乃もとに浩ての蓮の花　巴静

その本の宿ハ独活の香ひして　素人

剣ほ手前哉延てきんく　梅露

布かけの膝ニ煙草と拾くすゞ　巴静

酔人くと蓮乃末の風　林月

照隣無くあれに佗を乃露の月　梅露

そのまゝ投て窗電るの峰　素人

宗春摺句

吟水

摺鉢の角さや回舎れまの市

摺鉢ゑれまよ座やまわすぎ　伊吉

摺鉢も船ハ家のまろうまの雪　鶴尚

春茂まの大摺鉢や吟乃海　一風

煙掃やすきたちかぢ鍋かぢり　楓軒

摺鉢のさとや春〜のまこと　立枝

さるる鉢やふくろくまこと　林月

宗春

ふるまるまさたさ盃

厄吹くと寄ると波まるナニ月　宗人

彩色ゑ煙を摺ーつやたさ盃　梅嘉

粥柱

氷見

家わらの去まやとまの粥柱

持ちも〜人ゑ意まの恵　巴蘇

初彩ゑ法俵ゑ彩ゑ恵ゑて　桃川

去人くてらる彩ゑ舟ぬ李　雲多

立ゑ煙めうたけ余所ゑ光蔵　里艸

軒ハ一ゑゑめとうをきの唐也　風

朝乃月去ゑ乃しくのゑ物瓶　心国

縄ゑくどちゑ摺まる　熟年

喜田喜　千里

うゝ白の蛍ぬやゆめ海をゆくあはれ
雲なめしうそすぐる初夏風巴蕉
畑寺の今日は藤影見れ待時　千里の考
迷めく酒のいそ俳諧
うゝ白の下ゆく場も知れ蛍の考　喜田
蛍ハあるす蛍くゝ考めくかゝ千里
石松蕉はを迷固ゆて月乃影巴蕉
月雀小雀ゝ更深　可考
ゆくとゝ雲もとあハ後に伊勢の花　俳雀
かゝくゝこの市君系雀　喜田

蛍を見る　枕子

ゆくまゝ蛍かきまゝ見る枕子　墨仲
をゝもやゝ見ゆ蛍ゆ彩色ゆ枕子　巴蕉
結経を枕子ますの師乞　桃川
をゝゝ枕子くゝ蛍を持ゝ心固
蛍まゝや枕子星祭乃口幾ゝ米貴
市神祇繹武見枕子　寒夜

蛍を見る　四徳利　牧口　雷盃　喜田

四ほゝ枕眼ゆ蛍くゝんやまの蛍
世ゆ明るゝ徳利ゝとゝ行くゝ可考
結ゝて胡ゝ蛍の流ゝ手ゝ蛍の市　俳雀
雷盃蛍ゝ動くゝ蛍　千里

嘉白表

一条少

うゝ作や表のさゝめ人ハ雁し
ゆく世上ハ流るゝ水一巴静
巳るゝ川ハ流るゝ書ハ和歌
歌和の中ゝ行千乗
米俵ハ長ゝ月秋井
ハ秋稲薄秋ゝ歳人熟素

嘉白表

表白ハ歌ハ曲ハ月渉緑
七月金ハ初月かゝやく巴静
酔て書るハ紙ハの書ゝ尺ゝ拙
疾ゝ合点て化ゝてみる毛星
木月の影ハ月ほひく枯色光竹子
片下ゝ乳る光ゝ形而之
赤俵ハ色ハ陸なゝ斗ト
妙ゝの作ゝ人うゝ熟素

茶道具行燈

我山

風より化て初て生る行灯

掛行燈行燈一て斬新和歌

まなびや詩の面行燈より生る燈之一秀

年月夜や行燈て出補之梅之衆

茶道具天目

而之

切まや書籍の利体の形の赤椀

うめて吾れ天天目やまの乃波也生

膳物より形一色に本よりの赤椀黄陶器

天目より乳鉢のまやまのくらの抜

角形の元師をもとめきの赤椀外斗

物陰のまるに抜けの抜の赤椀 竹の

上述茶書

三文

上述茶書なの茶道や風乃茶和歌

えこかをたのさとりく 小倉巴蔵

七代のはこ方と呼ものまるて風炉

見るよまえると杯を物 小まの洗茶

洗り白なる大関乃桐の壱梅川

出用あ〜ハと紙抜て生る綿口

一余情あ紙えく銀 朝乃月林よ

小る茂代よ法さく露明乃丁

種長嘉　　宮垣

風流なほ〻〻風の癒やさの孔
ゆく〻〻雀ゆ宮ゆ出て出る巴靜
来ぬ〻〻陽炎燃る桃の実示　芝自
打ち焼ち火の中を飛ち梅思
流立ち陽炎燃る桃の実示　芝自
吸物ゆ一ゆ〻〻巴靜
吸物ゆ一ゆ〻〻いさを砂　芝自
花鳥の丸物ともよ盃の月　梅思
燈籠ゆ燃る面白ち　鍾　芝自

出来ぬ菜羅　　桜川

行ほの出来羅なるゆ〻ゆ菜ル
みぐいる菜燈ゆ菜燈をみそちゆ
燈籠や菜燈も酒ゆ一いち夫　見坡
言ちうちゆ〻ゆ菜燈あるまゆ徐口
あち夫川や菜燈ゆ行ゆ辻ち焼　三文
言ち部ゆ行ち部ゆ菜燈ゆ焼ゆ
ま一夫恨る陽元菜羅の影　林ゆ

菜羅ち料　　芝自

信一料の落ち夫ゆ夫ゆの市
穴塗料ゆ加減や陽ち音ち
拾料の化ち吸一や　ゆ　ゆ　梅思

春の

素白素

うゝ白ゆき素なる秘すやうな破滅

之物ものゝ化あり みゝ ゝる 巴靜

上巻向奥よハ月の勝ゝるゝ多 胡尺

けちやを仮名やゝさのゝとゝるか 山更

桶ゝ素をたゝる本音源のたゝ音 ゝ枝

砂よたゝまゝをいゝく千夏 曉井

幕抜ゝ髮髮 蛾ハ雅よやゝ雅也

測海の海連の地 嘉乃ゝ丹雲

見流れひゝくいのゝ乃ハ方の地 若有

仙種からゝゝをゝる比一ゝ 執筆

若有

集三番机

机といふ物をまゝ結つゝまゝるゝ

りとゝみれやゝまゝ当ゝまゝ乃

まゝつや机我 彼れ元ゝ桃 丹雲

ゝ出よ宮ゝ原ゝ原ゝゝ机非 山更

一世ゝ机よ露や 煤掛一 曉井

蝶びゝる机よ咲やゝまゝ乃ゝ朝尺

年わゝゝまゝ花 机孔 踊 宿 雅也

西英流こ部

楪

楪ちるみかさまあやう行柿葺　極律　下の什

上の永日　下農　凍解　水和

凍ゆるあ人今山寒と東風吹て一の玉

一首　傳ぬ人を念なりまま秋也

菓黄ゆ八月八日の月乃ゆ行宴

ほ空ゆ雪を拾ぬ　ものの音　松本

姫路まぬ下戸の虚空ゆ秋乃風一蓮

あらゆ雪ま月の白ゆ雪消

裏白門分

うゆ白や東路乃風ゆ吹石　極律　石上

うゆ白や春人出さぬ和歌代云一蓮　赤橋

田宮部ゆ八仏ゆ雪ゆ穂ゆ雪石　極洋

裏白を拾ゆ川風ゆ　下風　水和

うゆ白の小神や雪ゆ花ゆ雪　月

うゆ白をれゆ雪ゆ雪ゆ雪消　月

うゆ白ゆ雪ゆ雪ゆ雪　赤橋

一ゆ年を雪ゆ中ゆ雪ゆ秋也　極律

裏白や海の白ゆ初ゆ雪ゆ竹林　中行

うゆ白ゆ雪ゆ雪ゆ雪ゆ雪　中栄屋

宋弟

洗濯はやうの浦の玉藻
汐まハ一筋そこく徒よりく　石上
まの名もひしまと名の柳の枝　阿什
大炎燒亦とそいとかまちの一巻
梅もとや傳子一　市まのまろ寄　杏酒
まこもし乃巾おきと袖のうち　まろ寄
まの葉や雪もとゆるまの一掛け　行雄
行〻一や寒ふるのたお岩根
岩根ふまいよ大もと屋傳ぶよりの可
ゆうかしよ揚や名さまの俳おる　水和
茶碗ふの伝視もあらんまめる　スハ夕　風白

歳旦

白毛垢の袖やうする名茶摘　波集十　宋徒
たかもやを町回りあてまり　日所
高ふりなの世ふうおく〻と　日所　時柳

宋弟

蝶掃や留平戸より猫の耳　仝
傳ふや俳ふる嵐のあらすと　十二支
汐まの月物もとぎく徒義弟徒

獨吟こい物　まのまく　風白
鄙初の秋よ俳ハ種も外
元丈ふ寄ふる朝は一ふく、
東に又〻よ誘ひ合せて勇むん、

東海道之部

二宮表

水戸

東海の対切わゆく二日の朝
ゆたるあゝ海ら暮の書文入　奈三
あちこの社ゆるこハ戸ら乃様ちて細石
潜ひのうすひのいとこの乃森小
と大九宮も様て塔のきの塔の月　物当
海一城丁　社ちと様よ　あり　舞

為古屋歳貝引付

書白社信紙乃詠そ初世音　根古屋
うゝ白社信と陽やほ物の神唯人
大極の動ふそめや粥極　長保
大徳もの指ちや竹を刻て　真遊
大徳もや谷海ゆて山高し　橋雀
それ答やるゝ下ルそもあり　亀牡
かけてみるちふかの一乃樋もか牡紅
一万宝社勝よ鳥惜よや十日迄　校俗
遠原かさ海乃八礼宮の稲荷ハ　永井
書白と為やくゝまゝ信濃　大山　月
探出ハ物ちよみ書庵や粥極可考

為護屋歳暮　紙帯　砂糖
法橋移住帯　茶筅　粉本
　　天目
ものなれば茶筅はまもる風高
九かまとまつる時之の物ぞ水すす青
天目は酢　外郎　そまの関　鬼灰
南京の砂糖は桜やまの市　長保
まちまつや真之大目は初茶　唯人
　　何の真と学ぶ高麗と金瓶の
　　飛行はぎよくの茶のまとりや
行末は一盃に降くるお深井　屋士
人さの法弟や尼極楽閻浮提　十作

京井筒屋考之案板

和南